



くりの図書館長賞を受賞された 天川 柊斗さんの作品を掲載します。

キラキラしたものの、栗野岳

轟小学校 五年

天川 柊斗さん

栗野岳を、三日月池をもっとみんなに知ってもらいたい、椋鳩十の伝記を読んで、ぼくは強くそう思った。

「柊斗君、ここが、『大造じいさんとガン』のお話の舞台になった場所だよ。」

仲良し交流会に向かうバスの中で、先生が教えてくれた。最初、ぼくは何の事だかよく分からなかった。あとで、国語の教科書を開いて、そこに「栗野岳」という文字を見つけたとき、バスの中で先生が言っていたのはこの事だったのかと思い、すごくおどろいた。栗野岳は、ぼくの家からも見える山で、湧水町の自まんの山だ。ぼくは、興味をもつてワクワクしながら物語を読んだ。大造じいさんと残雪の戦い、ハヤブサから仲間のガンを守った残雪、大造じいさんの前で最後の時を覚悟した残雪、そして、頭領としてのいげんを傷つけまいとする残雪のすがたを想像し、栗野岳の三日月池を思った。ぼくは、自分の命を投げ出してでも仲間を助けるという強い勇氣と、頭領としてのいげんを保った残雪がすばらしいと思った。ぼくには、とてもむずかしいことだと感じた。きつと大造じいさんもそんな残雪のすがたに強く心を打たれたのだと思う。

また、ぼくは物語にえがかれた栗野岳の情景の美しさもすばらしいと感じた。こんな感動を与えてくれた椋鳩十という人は、どんな人物だろうと思ひ、椋鳩十の伝記を読んだ。みたくなくなった。椋鳩十は、長野県出身で、子どものころは村一番の手におえないガキ大将と言われていたそうだ。

『椋鳩十 生きるすばらしさを動物物語に』

あかね書房 2019年
久保田 里花文



も、六年生の時の担任の先生が貸してくれた「ハイジ」の物語がきっかけで作家の道を目指すことになった。鹿児島で医者をしてきた姉が仕事を紹介した縁で、椋鳩十は鹿児島にやって来た。そして、自然の中でたくましく生きる動物の物語を多く書いた。ぼくは、椋鳩十が物語を通して、何を伝えたかったのかを考えてみた。椋鳩十は、生きるすばらしさを、生きる力となるものを動物のすがたを通して伝えたかったのかなと考えた。

ぼくは、鹿児島でたくさんさんのすばらしい物語を書いた椋鳩十、そして、「大造じいさんとガン」の舞台がここ湧水町の栗野岳であることをもつと多くの人に知ってもらいたい。みんなが知ってくれれば、湧水町を好きになって、自分のことのように誇らしく思い、幸せな気持ちになるのではないかと思う。

椋鳩十は、死の直前まで「まだ、キラキラしたものが書きたい」と言い続けていたそうだ。キラキラしたものは、生きるすばらしさのことだ。栗野岳は、キラキラした山で、生きるすばらしさを教えてくれる山だと思ふ。

感想文の部

優秀賞

轟小学校6年 田島 樹莉さん
「共に生きよう」

轟小学校5年 植村 樹奈さん
「モモちゃんとあかね」

栗野小学校4年 池田 朱里さん
「『マヤの一生』を読んで」

コンクール受賞者の感想文は、
令和4年度「文集ゆうすい」に
掲載されます。

また、くりの図書館内でも、
感想画の受賞作品と併せて展示して
ありますので、ぜひご覧ください。

開館時間：午前10時～午後6時（毎週金曜日は午後7時まで）

休館日：毎週月曜日、祝日（こどもの日、海の日、文化の日を除く）、毎月第4木曜日、
年末年始（12/29～1/3 月曜休館含む）

問い合わせ先：くりの図書館 74-1821